

北社会ニュース 第28号

2007年1月25日

発行者： 鈴木壮夫

会員の皆様、今年もよろしくお願い致します。5人の世話人にて北社会を開催し続けて、4年目に入りました。世話人をお引き受けした時、「北社会」のあり方を次のように決めさせていただきました。

《会員ひとりひとりが当事者意識をさらに強め「発信・発光」する》

このあり方は会員の皆様のご協力によってゆるやかではございますが、ひとりひとりのお気持ちに浸透しつつあります。どうぞ今年も当事者意識をさらに強めてより価値ある「北社会」にすべく「発信・発光」をお願いします。会員の義務と思って下さい。

さて、1月も一週間を残すだけとなりました。具体的に「これだ！」とは指摘できないのですが、何かいいしれぬ不安を多くの人々が感じて正月を終えたのではないのでしょうか。ほぼ70年前、ルース・ベネディクト女史が労作「菊と刀」の中で日本人の資質は“聡、義理、人情、貞節”と論じたことご承知の通りです。敗戦後も多くの国民にこの資質が引き継がれたからこそ世界に冠たる復興が成就されたのではないのでしょうか。戦前、軍事により国民は強引に動かされた。敗戦後、それから脱却して出来るだけ自主的に人々は動こう！と学び、働き生きてきた。そして今、明確さに欠ける「美しい日本」という思いつきにて“無理に人々を動かさねば・・・”との後戻りの予感を感じるのは私だけだろうか。「納豆売り切れ」に象徴される日本人の「負の資質」があるからこそ、ある意味では国民がまとまって生活できているのかもしれない。普通の人々が普通の生活を維持できさえすればそれで良い。それが日本のレヴェルと判断していますが皆さん如何でしょうか？奇妙でいやなニュースで明けた2007年、而もやや決断力に欠ける社会の修正は簡単ではないと思うが平山郁夫さんは「日本人生来の正義感と潔癖さを信じている」と新聞紙上で語りかけておられた。ひとりひとりが大事に生きられる社会の実現を願って、日々生活せねば！と覚悟(?)をせざるを得ない昨今です。

(1) 来月の北社会開催 2月21日(水)

講師：仙台二高 校長 柏葉浩明氏

107年になる母校の歴史に今春一つの区切りが生じます。いまだ賛否両論が絶えない「男女共学」が実施されます。来週には定員の二割に相当する推薦入学の合格者64名が発表され、同窓生の多くがなにかの感慨に耽る時期が到来すると思います。今年前半に「区切り」を語っていただけるお立場の方々をお迎えしたいと考え先ず柏葉校長先生にお願いしました。二高に着任されたのは二年前の4月とお聞きしております。共学実施に伴うご苦勞は数知れずあった筈ですし、現実のものとなる4月以降も何が起こるか判断できない、お役目とはいえ心から御苦勞様と思っています。一年半の間に4-5回お会いして謙虚で誠実なお人柄に敬服しています。一つの区切りを共有できると信じております。

(2) 「同窓会報」について

昨年七月開催の同窓会総会において役員改選があり、役割分担も変わり、私と同期

(高11回)の笹氣君が「会報」担当になった。本人より電話あり「ソーフ、気付いた点あれば連絡せよ」と。次の提案をしました。(イ)同窓生の中から会報の編集委員を公募する。(二)高勤務の先生に任せない (ロ)同窓会報の主役は「同窓会」、「学校」ではない。巻頭に同窓会会長にご寄稿いただく。(ハ)5人に1人しか同窓会費を支払っていない現状を二高同窓なら恥ずかしいと自覚するように仕向けなければならない。ここは一步も二歩も譲って「会報」に関心を抱いてもらうキッカケを提案すべき。卒業年次毎の同期会の開催通知等は如何だろうか。(ニ)「会報」の有料化も検討されたらどうだろうか。同窓会活動に関心を抱くかどうかは会員ひとりひとりの判断ですから。以上4点でした。北社会の会員の皆さん、首都圏に生活している私達が母校の現況を知る唯一の情報源が「会報」と言っても過言ではないでしょう。情報を提供してやって下さい。

(3) 私が読んでいる本、買った本のご紹介

(イ)「謝謝!宮沢賢治」朝日新聞社 「〈意〉の文化と〈情〉の文化」—中国における日本研究—中央公論新社 著者は二冊とも 王敏(ワンミン)さん。昨秋、東京同窓会会場にて西澤潤一会長が話題にした本です。

(ロ)「報道が社会を変える」早稲田大学出版部 コーディネーター 原剛 教授 TVが特にひどいようだ。見て信じる側にも問題がある。本著の「はじめに」に “自らに対しても批判精神を差し向け、果敢に挑戦する、そんな志を高く持ったジャーナリスト個人の活動に応え励まし支援サポートし育てていく”と書かれている。報道の現場(裏側にあるもの)を知ること大切。

(ハ)「昭和史」戦前篇と戦後篇 平凡社 半藤一利氏 同氏は五つの教訓を語る。

1. 国民的熱狂をつくってはいけない。2. 危機におよんで日本人は抽象的な観念論を好み、具体的、理性的な方法論を検討しない。3. 日本型タコツボ社会における小集団主義の弊害。4. 問題が起こったときに対症療法的で、すぐに成果を求める短兵急な発想をする。5. 国際社会のなかの日本の位置づけを客観的に把握しない。

(4) Webマガジンサイト「日経Waga Maga」 【悠々自適!】

先月、取材の申し込みがあり協力しました。「定年後はそば屋でも・・・」とあごがれを抱いても早々に断念する人も多いだろう。「オレ流 セカンドライフ」にて50才代を中心としたエルダー世代を支援して欲しいというものでした。サイトのURLアドレスは下記の通りですがYAHOO等で「オレ流 悠々自適」で検索するとすぐに探すことができるそうです。お時間あったら見て下さい。取材に協力はしたが大きなベースになる二点がスポンサーの圧力等でカットされた。残念なことでした。

<http://waga.nikkei.co.jp/ch/bkmufg/yuyu/suzuki/index.html>